

平成28年度 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 守恒 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成28年4月19日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語, 数学)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査(国語, 数学)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
<ul style="list-style-type: none">・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・実生活において不可欠であり、常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能	<ul style="list-style-type: none">・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

(2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 数学A・B)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		数学A		数学B	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	24.3	74	5.8	64	21.2	59	6.1	41
全国	25.0	76	6.0	67	22.4	62	6.6	44

(2) 本校の学力調査結果の分析

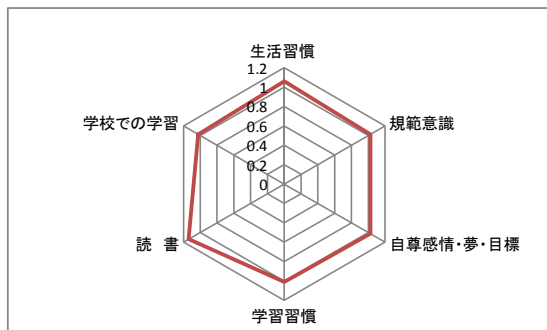
国語A	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> 全体的には、全国平均を上回っている。漢字の読みや「話す・聞く」の基本的な問題は良く出来ている。しかし、簡単な問題でのミスが見られる。 日頃使わない語句や慣用句の問題の正答率が低い。 	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	漢字の読み、敬語、歴史的仮名遣いなどの基本的な問題。	上回っている
	努力が必要な問題	書写など日頃見慣れない問題や、日頃使わない語句や漢字の意味、用法などの問題。	

国語B	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> 全体的には、全国平均を上回っている。 書く問題や長い文章が面倒だと感じると無解答率が上がる。 	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	選択する問題。	上回っている
	努力が必要な問題	本に関する問題や条件作文の問題。	

数学A	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> 全体的には、全国平均正答率を上回っている。式の計算、ねじれの位置、反比例の式の問題は、正答率が高い。 比の利用、yの増加量、真の値の範囲の問題は、正答率が低い。 	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	式の計算、ねじれの位置、ひし形の対角線の性質、反比例の式の問題。	上回っている
	努力が必要な問題	比の利用、yの増加量、真の値の範囲の問題。	

数学B	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> 全体的には、全国平均を上回っている。関数を利用して総費用を求める問題や相対度数の問題の正答率が高い。 グラフの読み取りや与えられた式を用いて数学的に解決する問題の正答率が低い。 	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	グラフの傾きの解釈や関数を利用して総費用を求める問題や相対度数の問題。	上回っている
	努力が必要な問題	グラフの読み取りや与えられた式を用いて数学的に説明する問題。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ゲーム等の接触時間が1時間以内50%、テレビ等の視聴時間が1時間以内25%と、全国平均と比較してよい傾向にある。 将来の夢や希望をもっている生徒は全国を上回っている。夢を実現させるために具体的な目標設定を行い、行動に結び付けさせることが必要である。 めあて、まとめが示されているが90%、発表の機会が与えられているが92%と改善された。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

<ul style="list-style-type: none"> 発表する機会が与えられていると答えている生徒は、全国と比較しても高く、授業の改善が見られる。 めあて、まとめの明示が90%と改善された。今後は、振り返りの時間を効果的に取り入れたい。 「書く」分野の正答率が低い。自分の考えを書いて整理してから説明させたり、書く活動を位置付けたりする必要がある。

② 家庭生活習慣等に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> 「自主学習」として、漢字、計算、英単語、英文の練習をする。 学習方法をまとめた「学習の手引き」や「家庭学習チャレンジハンドブック」を活用する。 週末課題プリントを全学年で取り組み、家庭学習習慣や基礎学力のより一層の向上を図る。 学校便り、学校HPで、学力。体力向上ステップアップについて知らせる。
